

地域の経済動向（令和5年1～3月期）

《道南（渡島・檜山）地域》

1 経済動向に係る企業等の声（1～3月期）

【建設業】

- ・ 人手が常に不足しており、特に有資格者が集まらない。新卒者が入社してくれたら、当社で育て、資格を取らせたい。（建設業）
- ・ 土木関係は順調。コロナの影響もないところも多く、災害復旧工事他、公共工事の発注が順調で、工事がこなされないので、夏の災害復旧工事は翌年の発注にしよう、建設協会から役所をお願いしたところもあると聞いた。宿にも多くの工事関係者が宿泊している。ただ、原油・原材料高騰の影響はあり、建築関係では資材が入らないという話も聞いている。（金融機関）
- ・ 建築関係は良くない。一般住宅の建築単価が、坪60～80万円から100万円に上昇している。（金融機関）

【製造業】

- ・ 包装資材の単価上昇や、今後見込まれる賃金の上昇を考え、商品の値上げを検討しているが、なかなか踏み切れない。（水産加工業）
- ・ 育成牛の販売が大幅に減少。生乳の販売は、出荷調整はあるもの道東ほどの影響はないが、飼料代、電気代の高騰の影響は大きい。（食料品製造業）
- ・ ロシア産・国内産共に原材料の価格上昇はあるが、大幅という感じではなく、製品価格に転嫁できており、さほどの影響はない。（食料品製造業）
- ・ 常にハローワークに求人を出しているが、充足されない。原材料は確保できているが、人員不足で工場がフル稼働出来ず生産能力が低下。（食料品製造業）
- ・ 振興局実施の専門家派遣事業（地プロ）は効果的だった。今後も専門家派遣事業の拡充や、商談会等販路拡大の取組を希望。（製造業）

【卸売・小売業】

- ・ 薬の仕入れ価格が上昇している。特に漢方薬はほぼ輸入品のため上昇傾向。（医薬品小売業）
- ・ プレミアム商品券の消費促進を実感している。福引のペント開催時は予想を上回る盛況で、用意していた景品がイベント期間の前半になくなるほどだった。（商店街振興組合）

【運輸業】

- ・ タクシー業界は人員が減ったことで1人あたりの売上が上がっている。（経済団体）

【サービス業】

- ・ JRの周遊バスや全国旅行支援の効果がかなりあった。外国人観光客が増え、人気の居酒屋では開店前から行列ができるなど、観光需要の回復が見られた。（経済団体）
- ・ ほっかいどう応援クーポンが電子化し、スマートフォン等を持っていない高齢者を中心に利用できない事例が出ている。紙クーポンが使用できる店舗のリスト化など、利便性を向上させてほしい。（観光業）
- ・ 観光の物販が伸び悩んでいる。コロナの影響で、旅行を内密にする傾向があるため、土産物よりも現地で消費する人が増えている。（観光業）
- ・ 観光需要の回復の一方で、人手不足が依然として続いている。クーポンやプレミアム商品券などの補助が増えることで現場の事務作業も増え、マンパワー不足が加速。現場の負担が少ない仕組みに改善してほしい。（観光業）
- ・ 函館市内はホテルの数と観光客が増えているが、従業員数が追いついておらず、クリーニング等を道外事業者に委託している状態。（観光業）
- ・ 電気料金を筆頭に、光熱費が30%以上値上がりしている。国の補助が終了した後のことを考えると、商品の値上げを検討したいが、年代の高い客層は抵抗感を示している。（宿泊業）
- ・ 大人数での宴会が行われていないため厳しい。（飲食業）
- ・ ボイラーに使用する灯油、電気代の高騰が負担。クラフトビールは元々価格が高いため、値上げできないが、レストランメニューは値上げする予定。（飲食業）
- ・ 夏の予約がすでに入っているなど、昨年よりは客足が戻っており、上手くいけば、コロナ前の水準に戻るかもしれない。（飲食業）
- ・ 魚の不漁で仕入れ値が高騰、光熱費の負担増、インボイス制度への対応等課題が多い。（飲食・宿泊）

- ・ 買取価格は上昇傾向で、特に金属が上昇しており、ロシア問題や円安の影響があると思う。取引に中国が進出してきている。(廃棄物処理業)

【全体】

- ・ 経費上昇による販売価格への転嫁も必要だが、昨年原材料高騰による値上げをしており、再度の価格転嫁は難しい。(商工会)
- ・ 電気やガスが値上げされる一方、収入は現状維持もしくは減少している。エネルギー供給先の見直しを進めているものの、どの会社も値上げしており、どうにもならない状況。(経済団体)
- ・ 燃料、原材料高騰の影響で設備投資が進んでいないようだ。(金融機関)
- ・ リスクは昨年より増えた。取引先に後継者がいないため廃業した企業があり、資金繰りに支障をきたしたものである。(金融機関)
- ・ 企業でも、設備投資での環境配慮など、ゼロカーボン、SDGSを意識してきたようだ。森林面積が大きい地域なので、何もしなくてもゼロカーボン達成できると思うが、何かをしなければという意識が、住民にもでてきている。(金融機関)

2 道内金融機関から見た地域景況感 (1~3) 月期

① 非常に好調 	② 好調 	③ やや好調 	④ 普通 	⑤ やや低調 	⑥ 低調 	⑦ 非常に低調 
---	--	--	--	--	--	---

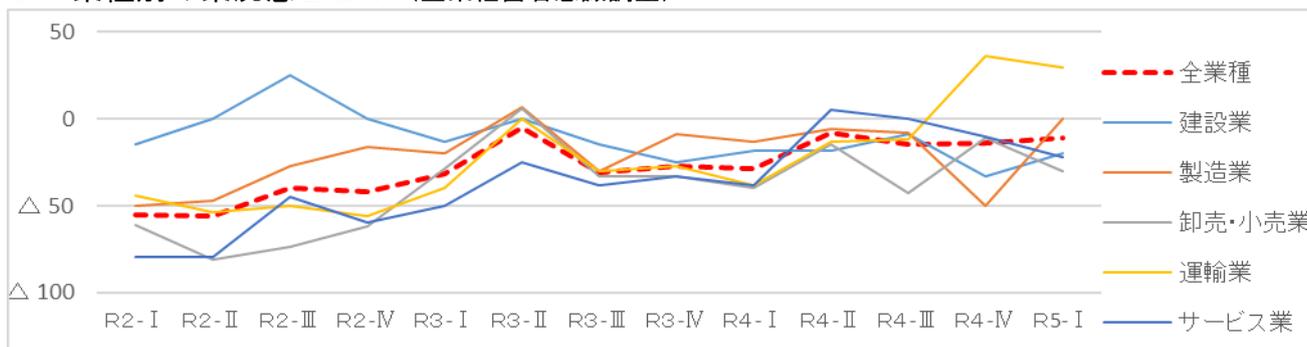
【直近の景況感】

	現在の景況感				次期見通し	
	総合	生産 動向	消費 動向	判断理由	方向感	判断理由
渡島信用金庫				新型コロナウイルス関連に係る規制緩和により、一部観光関連の業種に持ち直しの期待感もあるが、原材料・燃料費等の高騰により早期に景況が回復となるものではないと考え、「やや低調」と判断した。		新型コロナウイルス関連に係る規制緩和により、人流の活性化に期待が持てるものの、各業種において物価の高騰など、景況感が上昇傾向にあると判断する材料は乏しいものと考えられる。
道南うみ街信用金庫				今期の業況DIは、概況で前期比18.4ポイントの悪化となった。原材料・燃料費等の高騰分が販売価格へ十分に転嫁できていない事や消費の低迷が要因となり、売上額では、前期比32.9ポイント、収益でも前期比27.5ポイントの減少となった。従って、前期の「やや低調」から「低調」と判断した。		次期の景況見通しは、概況で8.3ポイントの良化予想となった。売上額でも33.0ポイント、収益においても19.4ポイントの増加を予想している。仕入価格(原材料価格)では、下降予想となり各業種共に活況を呈すると予想し、今期の「低調」から「上昇傾向」と判断した。

【景況感の推移】

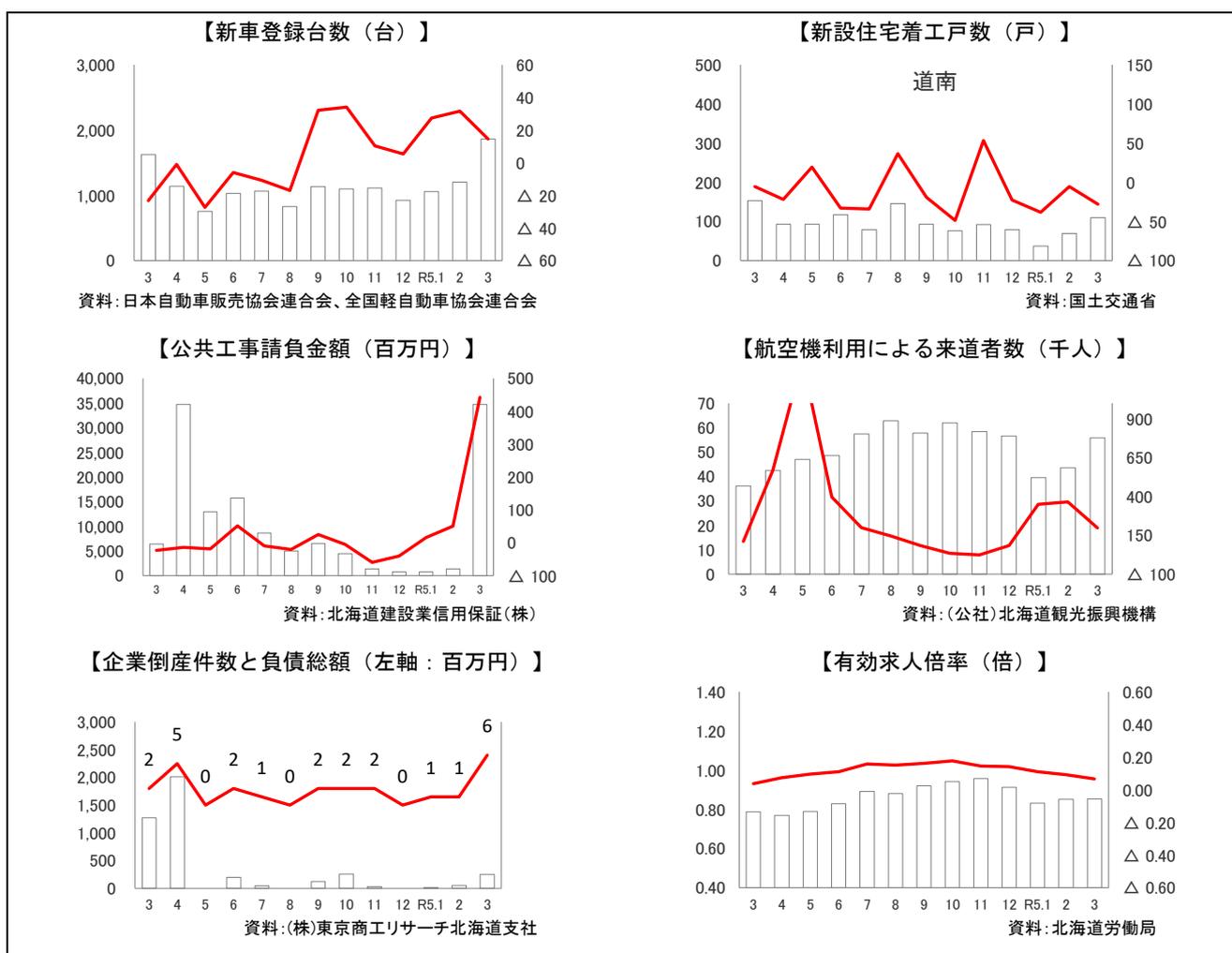
	R3-II	R3-III	R3-IV	R4-I	R4-II	R4-III	R4-IV	R5-I
渡島信用金庫								
道南うみ街信用金庫								

3 業種別の業況感BSI（企業経営者意識調査）



	R2-I	R2-II	R2-III	R2-IV	R3-I	R3-II	R3-III	R3-IV	R4-I	R4-II	R4-III	R4-IV	R5-I
全業種	△ 55	△ 56	△ 40	△ 42	△ 32	△ 5	△ 31	△ 27	△ 29	△ 8	△ 15	△ 14	△ 11
建設業	△ 15	0	25	0	△ 13	0	△ 15	△ 25	△ 18	△ 18	△ 9	△ 33	△ 20
製造業	△ 50	△ 47	△ 27	△ 16	△ 20	7	△ 30	△ 9	△ 13	△ 6	△ 8	△ 50	0
卸売・小売業	△ 61	△ 81	△ 74	△ 62	△ 29	6	△ 33	△ 33	△ 40	△ 15	△ 43	△ 11	△ 30
運輸業	△ 44	△ 54	△ 50	△ 56	△ 40	0	△ 30	△ 27	△ 38	△ 13	△ 12	36	30
サービス業	△ 80	△ 80	△ 45	△ 60	△ 50	△ 25	△ 38	△ 33	△ 38	5	0	△ 10	△ 22

4 各種経済指標



(右軸：来道者数のみ前々年同期比、その他は前年同期比(差)：%)